

【不祥事根絶に向けた本校の決意】(行動基準)

- 1 私たちは、子どもたちを守り、育てます。
- 2 私たちは、法令を遵守します。
- 3 私たちは、不祥事を許しません。
- 4 私たちは、地域に開かれた学校にします。

令和7年度不祥事根絶のための行動計画

呉市立白岳中学校
作成責任者 校長 大島 美紀

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	○ 「不祥事は誰にでも起こりうる」との認識をもち、「自分だったらどうするか」という当事者意識を高める必要がある。 ○ ワークライフバランスの取組をより一層進める必要がある。	○ 不祥事に係る事例や日常のヒヤリハットを共有し、個々の意識を高める。 ○ 時間外在校等時間を確認しながら、仕事と生活のバランスを工夫し、教職員自らがいきいきと生徒の前に立つ。	○ 分掌ごとに服務研修の担当を割り当て、研修を実施したり、同僚の研修を受けたりする中で、意識を高める。 ○ 教職員への面談を通して、負担感や疲労感を把握する。 ○ 出張等、ゆとりをもった出発時刻を設定するように声かけを行う。 ○ 部活休養日等、早めに退校し休息するよう声かけを行う。	○ 管理職による教職員への定期的な面談を行う。 ○ アンケートにより実態を把握する。 ○ 見通しをもった日々の業務ができるよう、日報を活用する。
風通しのよい職場環境の確立	○ 経験年数も様々で、ゴールイメージそのものやイメージの持ちやすさ・持ちにくさにも差がある。 ○ 幅広い集団で相談しあうことがより一層必要である。	○ 教職員間の協力体制づくりやコミュニケーションをさらに促進し、教職員が心身ともに健康な状態で職務に取り組めるように努める。 ○ 組織で協力しながら仕事を進めている自覚を高める。	○ 感謝の気持ちを伝え合ったり、仲間に頼ったりする職員室文化を醸成する。 ○ 管理職によるきめ細かな声かけにより、教職員が抱える悩みなどを早期発見する。 ○ 各主任の力も借りながら、教職員が相談しやすい風土を構築する。	○ 管理職による教職員への定期的な面談を行う。 ○ 管理職間で教職員の様子を日々共有する。
相談体制の充実	○ 「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」のさらなる周知徹底を図る。	○ 「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知を繰り返し行い、相談しやすい体制をつくる。 ○ 全教職員で生徒を見守り、組織的に諸問題の早期発見・解決に努める。	○ 学校だより等で生徒・保護者に周知するとともに、校舎内全ての教室にポスターを掲示し、担当の教職員を明示する。 ○ 担任や校長が生徒面談を実施する。 ○ アンケートや懇談会等で体罰、セクシュアル・ハラスメントについて把握する。	○ 学期ごとに、生徒、保護者及び本校教職員を対象にアンケートを実施する。 ○ 気になる状況は共有し、全教職員で見守る等、状況に応じながら組織的に取り組む。